



二輪草だより

平成30年12月号
発行:二輪草センター

センターの活動予定 **新春** 年末年始のお休み期間は12月29日～1月3日です

- ◆1月7日(月)～9日(水) 冬休みキッズスクール開催
- ◆1月下旬 二輪草だより1月号発行

第31回 二輪草セミナー終了報告

二輪草センター助教 菅野 恭子



平成30年10月30日に第31回二輪草セミナーが開催されました。今回は「共働きの同居介護-ともに笑えたら・・・大吉-」と題して小児外科 宮本和俊先生にご講演頂きました。今回は札幌で一人暮らしをされていたお母様を認知症を機にご自宅で介護された話を暖かな語り口でご講演頂きました。

お母様は戦後の貧しい時期、勉強をしたくてもできず、家計を助けるため小学校卒業後働きに出て大変な苦勞をされたそうです。結婚後一人息子である宮本先生を育てながら雑貨店を切り盛りされ、難関の宅地建物取引主任者の資格を取得されました。子育てが終わってからは一級きもの講師の資格、華道師範、書道雅号を次々と取得されお琴や乗馬、水泳、海外旅行と積極的に活動されていました。その後短歌と出会いひたむきに精進され生田原にはお母様の歌句碑があるそうです。また驚くべきことに78歳に北海道応用心理学教室に入学し心理学を学ばれています。強い学習欲と行動力で勉強を始めるのには年齢は関係ないのだと気づかされました。

お一人で充実した毎日を過ごされていたお母様でしたが、徐々に認知機能の低下がみられ80歳のとき旭川で同居することになりました。ご夫婦ともに仕事をされているすれ違いの生活での同居介護にあたり交換日記を始めたそうです。日記の表紙にはこれからの心構えとして「つらいことに出会っても たたかわない！かわすことができたら・・・吉！ともに笑うことができたら・・・大吉！」と書きこの言葉が5年間、お二人のこころの支えとなったそうです。周囲の助けを借りながらともに笑うことができるように工夫し、過ごされた思い出を映像とともに紹介して頂きました。母の介護とは名ばかりで、明日の自分の姿を、自分の気の短さを、日常料理やお弁当作りの楽しさを、ともに笑える楽しさを、人と人との縁(えにし)の大切さを教えられた5年間だったそうです。

最後になりましたが、お忙しいところ素晴らしいご講演を頂きました宮本先生および聞きに来て下さった職員や学生の皆様にお礼を申し上げます。これからも育児、介護をテーマに実りあるセミナーを企画したいと思いますので是非多くの方にご参加頂ければと思います。



「医学生・研修医・女性医師の集い」終了報告

二輪草センター副センター長 安孫子 亜津子

平成30年11月16日に、旭川市医師会・北海道医師会が主催の「医学生・研修医・女性医師の集い」が開催されました。「研修医生活ってどんなもの？」をテーマに、4名の先生からご自身の歩んできた経験をお話しいただきました。今年は学生さんを中心に31名が参加してくれました。

旭川厚生病院 血液・腫瘍内科の塚田和佳先生は、2人のお子さんを出産されており、その後の休職、復職、短時間勤務など様々な形でキャリアアップをされてきた経験をお話しいただきました。「育児世代のジレンマ」という本を読まれ、自分の体験と照らし合わせて分析し、働き方や育児に対する考え方は人それぞれであるが、夫婦で一致させていく必要性などを教えてくださいました。



市立旭川病院 消化器内科の吉田萌先生は、初期研修医期間中に将来の専攻科を迷いながら選択したことをお話しいただきました。旭川医大での卒後研修では短期間でたくさんの科のローテーションで経験を積まれました。学生時代に写真部であった自分の興味を活かして、内視鏡医をめざすことを決め、現在は市立病院の消化器内科で大変充実されているようです。

旭川赤十字病院 脳神経内科の阿部恵先生は、学生時代から研修医時代にかけて、どのように自分の専門を決めてきたのかお話しくださいました。宮崎大学卒業後、旭川赤十字病院で初期研修を行い、北大病院、帯広厚生病院などでそれぞれの病院の特性で何を学んできたのかが良くわかりました。辛いことがあっても診療の中で「面白さをひろう」という感覚を大切にすることで楽しくお仕事をされているようです。



旭川医科大学 皮膚科の大坪紗和先生からは4人のお子さんの出産と育児、そして親の介護の体験についてもお話しいただきました。特に双子のお子さんの壮絶な出産体験を経ながら、その後の仕事復帰で「働ける喜び」を感じたという言葉は印象的でした。また、急を要さない重要なことをおろそかにしない、といった思いを持ち続け、忙しい中でも家族の思い出作りを大切にされている姿が素敵でした。

会の中では、旭川市医師会会長山下裕久先生からもたくさんの心強いコメントをいただき、旭川市医師会からの軽食のご提供、長谷部直幸教授からコーヒーの差し入れもいただきました。最後に会の企画、司会をいただきました長谷部千登美先生、宮本晶恵先生はじめ旭川市医師会・女性医師部会の皆さまに心より感謝申し上げます。

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【11月20日～12月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	25回	稼働回数	25回
病児・病後児保育室	依頼回数	15回	利用回数	13回
カウンセリング相談			利用回数	6回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます

